

桐生西ロータリークラブ週報

Rotary



2019-20年度RIテーマ

マーク・ダニエル・マローニーRI会長

ROTARY CONNECTS THE WORLD ロータリーは世界をつなぐ



例会日時 毎週金曜日 12:30~13:30
 例会場・事務所 桐生市堤町3-5-23 桐生プリオパレス
 Eメール kiryu-nishi@rid2840.jp TEL 0277-22-9155
 URL http://www.rid2840.jp/kiryu-nishi FAX 0277-44-2777
 会長 新木明夫 幹事 山形 剛 クラブ会報・雑誌担当 唐澤雅弘
 公共イメージ委員長:阿左美博 委員:金子福松、江原利夫(歴史編集:江崎和典) 唐澤雅弘

No. 2195

2020年6月5日発行

特 別 号

会員へマスクを配布

新型コロナウイルス感染拡大の為、2月21日(金)の例会を最後にずっと休会が続いております。その様な中、5月11日(月)、例会場の桐生プリオパレスさん1Fロビーをお借りしてマスクを配布する為、12:30~13:30の1時間の間に会員皆様にお越し頂きました。

このマスクは、日本中がマスク不足で大変な中、高森勉会員のご好意で原価でお譲り頂ける事になり、先ずは会員の健康を守ることを最優先と考え、クラブから配布する事に致しました。

当日は約40名のマスク姿の会員が、時間内にお見えになりました。ソーシャルディスタンスを保った状態でしたが、久しぶりにいつもと変わらない元気な皆さんにお会い出来て、とても嬉しく懐かしいひと時でした。



マスク1万枚を桐生市医師会に寄贈



納涼家族会・忘年家族会等で会員ご家族様から頂戴した募金を元に、高森会員より原価で分けて頂いたマスク1万枚を、桐生市医師会に寄贈致しました。

5月11日(月)午後4時30分、桐生メディカルセン

ター2Fの桐生市医師会にて、医師会長の藤江篤様に新木会長と山形幹事がお渡しして参りました。

コロナ感染予防の為、日々苦勞されている医療従事者の皆様へ医師会より分配して下さいます。

3月4月5月 出席100%表彰・誕生・結婚祝い

3月お祝いの皆様

◆出席100%表彰

中野幸三郎君 28年 下井田秀一君 25年
 新木 明夫君 24年 江原 利夫君 19年
 小林 聡 君 7年

◆誕生祝い

家住 慧路君 高森 勉 君 奥村 勉 君
 野村 滋 君 唐澤 雅弘君

◆結婚祝い

家住 慧路君 花房 孝道君 横塚 直人君
 今泉 攻一君 井本万里子君 堀江 絹子君

4月お祝いの皆様

◆出席100%表彰

花房 孝道君 29年 向田 靖 君 17年
 青山 豊 君 6年 奥村 勉 君 5年

◆誕生祝い

阿左美 博君 新井 淳一君 山形 剛 君

◆結婚祝い

中野幸三郎君 江原 利夫君 阿左美 博君
 野田真一郎君 斎藤 政治君 山形 剛 君
 山同 輝和君

5月お祝いの皆様

◆出席100%表彰

家住 慧路君 37年 前原 榮一君 28年
 天沼 一夫君 18年 近藤 幸利君 15年
 乾 和久君 12年 早川 勇一君 7年
 野村 滋 君 6年 山形 剛 君 3年

◆誕生祝い

羽鳥 隆 君 向田 靖 君 塚本 貢 君
 佐々木綾子君

◆結婚祝い

羽鳥 隆 君 田崎 武夫君 新木 明夫君
 奥村 勉 君 津久井正義君 小林 恵司君
 中島俊太郎君 清水 重昭君

皆様、おめでとうございます。

お祝いの品は5月11日(月)のマスク配布時に、また、結婚祝いは結婚記念日に花束をご自宅にお届けします。

《次例会予告》

6月12日(金) 通常例会を予定
 理事会で正式決定後お知らせ致します

グエン・ドック・ヒエウ君 米山奨学生終了に寄せて



当クラブが世話クラブとなり、野村滋会員がカウンセラーを務めたグエン・ドック・ヒエウ君(ベトナム)が、2年間の米山奨学生を無事終了しました。米山終了式を2月29日に、歓送会を3月14日に行う予定でしたが、共に新型コロナウイルスの影響で延期となつてしまい、会員皆様にはお別れの挨拶が出来ないまま、就職先の神奈川県伊勢原市に引っ越しをされました。ヒエウ君は、感謝の気持ちを皆様には是非伝えたいとのことで、ご本人の了解のもと、ここにヒエウ君のレポートを紹介します。

幸せな夢のようなここ、群大での奨学生生活との別れの時間が迫ってきた。留学に来る前は勿論、様々な期待や抱負で胸いっぱいになって群大に向かって来た。しかし、来日は4年間、米山奨学生になっては2年間、私が思ったより何倍も楽しくて素晴らしい生活だった！

大学院1年生の時から、米山奨学生になって、今年もうすぐ卒業します。最初に、世話クラブとカウンセラーとの関わりを言いますと、私は1ヶ月に1回例会に出席します。クラブによって、例会に出席する回数ですが、私の世話クラブは1ヶ月に1回で、その時に、奨学金が渡されています。また、クラブの行事や活動などの時も招待されて、一緒に参加させていただきました。毎月例会に参加させたことによって、クラブの様々な職業の方々の職業についての様々なスピーチによって、色々なことを勉強させて頂きました。また、学校や研究などで得られない幅広い分野の人との交流や、日本の文化・習慣なども体験できました。また、留学生が出席しないといけない米山の奨学会の行事などがある時にも、いつもクラブの誰か(特に私のカウンセラー野村さん)と一緒に参加してくださいました。毎回、クラブに出席するたび、いつもクラブの皆様は相変わらず温かい笑顔で迎えられ、本当に家族のような感じがします。

はじめて、例会に出席する時、「どういふ方々と出会うだろう、そんな偉い方々と交流できるだろうか」とずっと不安で緊張しましたが、優しくしてくれて、本当に感謝しています。今年の4月から大学を卒業して社会人になります。2年間クラブの活動から得られた知識を心に持って社会人の生活に活かしたいと思います。ロータリークラブは、私たち奨学生にお金の支援だけでなく、色々なことを体験させてくださいました。ロータリアンの皆様には本当に感謝しています。皆様、本当にありがとうございました。2月29日

マイトリー学園大間々南幼稚園へ図書資金贈呈

5月22日(金)午前中、新木会長、山形幹事、河内理事の3名がマイトリー幼稚園を訪問し、ロータリー文庫に補充する本の購入資金をお渡しました。当日は理事長の横塚榮三郎様と新井博介園長先生が迎えて下さいました。



RI第2840地区20周年記念祝賀会開催

ロータリー創立記念日の2月23日(日)午後5時から伊勢崎プリオパレスにて、当地区の創立20周年を記念して祝賀会が開催されました。

当日は、地区パストガバナーと現ガバナーご夫妻、ガバナーエレクト、各分区ガバナー補佐、各クラブ会長幹事が出席し、ご来賓には第2560地区のパストガバナーやガバナー、ガバナーエレクトをお迎えして、総勢約160名が一堂に会し祝いました。

当クラブからは新木会長と山形幹事が出席しました。



ロータリー創立記念日が誕生日のお二人

理事会報告 2月27日

1. 3月6日(金)の例会を休会にする。
2. 3月14日(土)の桐生西RAC創立30周年祝賀会を延期とする。

理事会報告 2月28日

1. 本日夜間開催予定の桐生西RC・桐生赤城RC合同夜間例会を急遽延期とする。

理事会報告 3月6日

1. 桐生西RC・桐生赤城RC合同夜間例会のキャンセル料を承認する。また会員負担の会費は全額返金する。
2. 3月29日(日)のIM中止により3月27日(金)の例会を休会とする。また会員負担IM登録料も全額返金する。
3. 4～6月の例会プログラム及び行事について検討する。
4. 高津戸荘観桜会共催は先方の申し出もあり中止とする。
5. 新規米山奨学生(2020年4月～2022年3月)モンゴルのドラムスレンさんの世話クラブを務める。カウンセラーは中里和子会員に務めて頂く。

理事会報告 3月11日

1. 4月5日(日)の春の家族会日帰りバス旅行を中止とし、4月3日(金)も休会とする。

理事会報告 3月27日

1. 4月10日(金)、17日(金)、24日(金)を休会とする。

理事会報告 4月20日

1. マスク1万枚を募金の残金およびクラブ運営費で購入し医療機関に寄贈する。

理事会報告 4月28日

1. マスク1万枚の具体的寄贈先を審議する。
2. 会員にマスク1パック(50枚)をクラブより配布する。
3. 5月8日(金)を休会とする。

理事会報告 5月8日

1. マスク1万枚の寄贈先を桐生市医師会とする。
2. 5月11日(月)12:30～13:30桐生プリオパレス1Fロビーにて会員へマスクの配布及び3～5月の出席100%表彰・誕生・結婚祝い品を対象者にお渡しする。
3. 5月11日(月)13:30～定例理事会を開催する。
4. 5月15日(金)と22日(金)を休会とする。

理事会報告 5月11日

1. 桐生西RAC創立30周年祝賀会は中止とし、5月29日(金)を休会とする。但し記念誌は発行する。
2. 大間々高校IAC合同例会を中止とし、6月5日(金)は持ち帰り昼食を用意して短時間で例会を行う。
3. 6月12日(金)以降の予定を次回理事会で決定する。
4. 桐生4RC合同プロジェクトは会長幹事に一任する。
5. クラブ会員内需拡大応援事業を検討する。

ロータリーを支える3本の柱

チャーターメンバー・パスト会長 星野 幸男

私に何か取り柄があるかといわれますと、ほとんど何もありません。あえて言うならば、桐生西ロータリークラブが昭和46年11月12日に認証を受けて発足した当時のチャーターメンバーにして頂いたこと位です。

ロータリーは一定不変ではありません。組織の膨張、自己増殖に伴って奉仕の内容、目標も変質してきました。少なくともその理念については変わらないかもしれませんが、運営面・実践面ではこれからもますます変化・発展していくでしょう。「温故知新」といいますが、人生百般どんなことでも今日をみ、明日を考えるにあたって、過去を一応振り返ってみることは、非常に大切なことでもあります。

ロータリーの理念や定款細則などについて書くには、私には荷が重すぎるので、入会当時、生き字引のような大先輩に教えられたロータリーを支える3本の柱と云われる「出席」「親睦」「奉仕」について、昔のロータリー生活を思い出しながら、まとめてみました。

ロータリーの出席[1]

どのロータリーの入門書にも書いてあるのは「ロータリーとは出席することと見つけたり」という名句です。ロータリーから出席を除きますと、何も残らないということになるし、出席のない所に奉仕の花は咲かないのは当然の事です。出席さえしていれば何時の日か何かを会得することができるようです。私も入会時は何もわからないので、唯々出席をしていました。

ロータリークラブでは必ず一週に一度、一定の日時に、一定の場所で定例会の会合を開くことを定め、その日時と場所は国際ロータリーが毎年発行する公式名簿に記載されて居ります。世界中のどこのクラブだろうと、全てのロータリアンは出席することが可能です。従ってクラブの例会というのは、そのクラブだけの会合ではなく、国際ロータリーの一員としての「公式会合」と言われる所以です。「ロータリーは出席がうるさくてなあ……」という、出席こそ国際ロータリーが一定の拘束として課している一番大切なものなのです。他所のクラブに突然予告もしないでいきなり飛び込んで行っても、何時でも良く来たと歓迎してもらえ、このような素晴らしい組織がロータリーなのであります。

例会に出席するという事は、クラブの為に出席率を良くするという点数稼ぎの為ではないと思います。昼食をするだけで殆ど話もしないで帰るというのも、おかしな話です。話を一切しなくとも、出席率が良いということも、おかしな話です。ロータリーのロータリーたる所以は、一週一度の定例会であり、会員資格を維持する為に必要な最低の条件が会費納入と例会出席であります。ロータリーで大切と言われる親睦も、出席がなければ生まれません。例会出席により、皆が顔を合わせていればいつの間にか友情が生まれて親睦が深まるということなのです。

しかし、これ等の言葉は或る会員にとっては、「今更何を言いますか。当然ではないか。」と叱られるし、別の会員にとっては、「これが苦しいんだ。」と本音を吐く。この両者の言葉の差が出席率に出てくるものだと思います。即ち会員各自の出席に対する心構えなのだと思います。

確かに、ロータリークラブの出席の厳しさは、他のクラブでは考えられない程でありました。出席というものは親睦に連なり、奉仕に結び付くと言う事から、例会出席が欠かせないのであります。創立者 ポール・ハリスは、出席のことについては大変考え尽くしたに違いありません。そして結局は、ロータリーは出席を基礎に置いて、その上に奉仕を置くというクラブ形式が、最上であるという信念を持ったに違いありません。

そして、「ロータリークラブは平均出席率が高くなくては、その重要な目的を達成することは出来ない。最良のクラブとは、最高の出席率を保持するクラブである」とも言っているのです。

昔の「東京ロータリークラブ創立〇〇年記念誌」にも創立当初は出席率が極めて悪く、毎月第1、第2水曜日に開催されていましたが、それすらも流会になることが多かったと、座談会で述べられています。それが関東大

震災で諸外国から救済金が送金されるにおよび、ロータリー活動の何たるかを身を以って経験して、本格的に例会出席が実行され、ロータリー活動が盛んになったと記録されています。

日本のロータリー発祥と言われる東京クラブでも、かくの如しでありました。入会当初の私も、ロータリーの本質など全く分かりませんでした。出席をしていけば、何時の日か少しは把握できると思いつつ、日々出席を重ねておりました。出席のない所に奉仕の花は咲かないし、奉仕のないロータリーはもはや「老足り」になってしまうのではないのでしょうか。

ロータリーの出席[2]

再び出席について書いて恐縮至極です。ある人の著書によれば「新入会員の最初のクラブ活動は例会の出席である」と書いてあります。成る程、この一言は一番大切なことと同時に、最も理解し易く在籍した者でも実行し難い場合が多い、希には例会を忘れることさえあります。歌を忘れたカナリヤでも鳥には違いありません。歌を忘れることは仕方ありませんが、飛ぶという初歩的で且つ最も大切なことを忘れては、もはや鳥とは言われません。我々ロータリアンも「〇〇奉仕」と言う前に出席という大空に飛ぶという原理を忘れてしまったら悲しいことになります。先ず、出席から始めてみませんか！

ロータリーが毎週の例会に出席すること、及びクラブが毎週例会を開催することを義務付けられたのは、1922年の標準クラブ定款が成立してからのようだ。1922年とは大正11年であるから、東京クラブは創立(大正9年10月20日)されていたが、大阪クラブは大正11年11月17日が創立総会というから、日本には2つしかなかったことになる。

逆に考えると、日本の殆どのロータリークラブは創立当初より毎週例会出席は義務付けられていたことになる。日本のロータリーが国際情勢の変化で解散していた時期、即ち戦時中ですが、東京クラブのメンバーは名称を変更して「水曜会」と称し、食糧事情が悪いので手弁当を持参して出席したという。戦時中ですら出席率は極めて高かったという歴史は何を物語っているのだろうか。この事実こそ、出席が親睦を生み、奉仕に連なることを理解していたことであり、出席する意義を見出していたからである。中には出席に疑問を抱き続けながらも出席していた人も居たに違いない。しかし、この様な先輩達が多かったからこそ、日本のロータリーはかくの如き他国に見られない大発展を遂げたのである。

ロータリーで出席をやかましく言ったのは何故かと言うと、何も定款細則がうるさいからではない。当初、定款には4回連続で欠席の際は退会と書いてあった。これは当然の理由があつてこそ規定されていたのである。

それは、ロータリーに出席するという事は、会員同志で出会うという事を尊重しているからである。私共は、いくら人格識見が立派でも、一人では心を磨くこと

は出来ないと考えていい。心を磨くには、人と人との間柄、人と人との出会いが大切であるのは御存知の通りである。この人と人との出会いが出来る所こそ、ロータリーの例会なのである。従って、出席こそはロータリーの会員身分存続と云う原則というのではなく、心を磨くことが出来る出会いの場となるのである。

ガイガンディカというロータリーの大先輩の著作によると、「ロータリーの例会は Live Wire の如し」と述べている。例会に出席することは、電気の流れている電線と同じである。従って例会を欠席することは、電線に電気が通じたり通じなかったりで、効果は全くないという事を言っている。必要な時に電気が得られる活動をしている電線にするためには、常時出席しなければならない訳である。

また、世界第一号のロータリークラブと自他ともに認めるシカゴロータリークラブの会報には、いつでも次のように書いてあるという。

“このシカゴロータリークラブは
貴方を会員にはしましたが、
貴方をロータリアンにすることは出来ません。
ロータリアンになるかどうかは貴方次第です。”

貴方がロータリアンになったときとは、どういう時でしょうか。

それは次4つの条件を満足させた時なのです。

- (1) 貴方がクラブの例会出席を楽しむようになった時
- (2) 個人としての奉仕を自覚した時
- (3) 貴方に貸与された職業分類を名誉と感じた時
- (4) 地域社会及び職業界への

ロータリーの大使と自覚した時

以上4つの条件を満足させた時にロータリアンになる、とある大先輩は述べていた。特に(1)の出席を楽しむようになった時とはどんな時だろうか。入会当初は私自身未だ未熟で、楽しくて仕方がないどころか、逆に苦痛に感じていて、休みたくなったのが本音だ。何とか出席を続けている状態で、さしずめ私は真のロータリアンとは言えず、唯々会員という所だった。ましては、(2)の個人としての奉仕を自覚した時となると尚更である。(3)、(4)となると更に気が遠くなる。

それよりも、一番最初に出席を楽しむようになればと書き出している所などは、ロータリーの真髓を表現する最たるものと言える。さすがはロータリーにおける最少の奉仕と義務であると同時に、最大の権利である出席をおろそかにして、奉仕などは一寸難しいともいえる。

理屈を言わずに出席することが、しかも楽しむようになった時に悟りが開けるのである。書いている私自身頭が痛い、骨の折れることである。

ロータリーの親睦

出席をすれば親睦を生み、親睦こそがロータリーの基本となることにはすでにご存じの通りであると思います。親睦といっても、暴力団の親睦もあれば、共産党の親睦もあるし種々雑多であります。しかし〇〇組の縄張りを中心とした考え方の親睦や、他人を入れない共産主義的な親睦とは、ロータリーの親睦と根本的に異なる筈です。自分達だけ仲良くして、仲良くすることの利益が全然社会に還元されていない。それらは言わば閉ざされた親睦です。それに対してロータリーの親睦は開かれた親睦であります。

出席なくしてロータリーなく、
「開かれた親睦なくして
ロータリーの特徴なし」

と言えるのではないだろうか。

ロータリーは、クラブの出席、親睦の中から生まれると言われます。親睦あっての奉仕ということ。

つまり楽しい集いでなくては、奉仕活動もないということ。その親睦の場が例会であります。例会はロータリーの原点と言うことが出来ます。例会は親睦を目的とする限り、楽しくなければなりません。それには先ず、会員が例会に出席し、会員が主役になることから始まるのではないのでしょうか。楽しいということは、傍観の立場に甘んじているのではなく、内部に入り込んで初めて達せられるものと思います。また例会は良い友人、知人を得る絶好の場であります。ロータリー最大の利益は、良い友人が得られることだと言っても過言ではありません。例会場は一面自己修練の道場であって、そこで個人奉仕の基盤が作られるとも言われますが、例会場はあくまで楽しみに行く所、仲間との談笑の為のところと考へたいものです。楽しければ出席率は向上し、友情が深まり、ロータリー活動に対する活力がおのずから湧いてくるものと考えます。

新会員の皆さんはよくこれを理解して、例会出席と同時に、早くロータリーを知るように努め、身を置くクラブの特徴を理解すべきであります。

それには、クラブのメンバーとなった皆様、真先にクラブを構成している先輩会員の方々一人一人とより知り合い、あなた自身をよく知ってもらふことだと思います。私達は安からぬ対価を支払って入会し会員になり続けているものです。それはロータリーを好ましいと思つてのことだと思います。ロータリーの集いが楽しいと思えるまで知り合いの度を深めていくことによって、はじめてクラブは一丸となって、奉仕の心が湧いてくるのではないのでしょうか。同時に先輩諸兄も「黙って俺についてこい」などと言わずに、是非とも自分から会員に近づいて、自分の人柄を示し、また新会員の人の把握に努めて欲しいと思うのであります。昔の軍隊に例えて申し訳ありませんが、古参兵は古参というだけで、黙っていても自然に近づきたい風格、威厳があるのであります。どうか先輩の皆様、親しみを与える物腰で、後進に接していただき、ご指導賜りたくお願い致します。

また、会員各位におかれましては、職業、年齢、趣味などの上で話が合うからといって、決まった席に固まらず、全ての会員が平等に接することが出来ますよう心掛けて頂きたいと思うのであります。ロータリーも発足のはじめ10年間は、クラブ活動も活発だが、次の10年はマンネリ化して鈍り、20年を超えると和が不十分になるということです。当クラブは本年度48年目を迎えています。まだまだどのクラブより張り切って和やかに盛り上げています。この素晴らしい西クラブの輪と活力をいつまでも持ち続けて、ロータリーライフを楽しんでいただきたいと思ひます。

自明の理ですが、出会いがあつてはじめて和がある訳です。また、ロータリーは実践が即勉強であります。例会だけでなく、年次大会、IM、クラブの奉仕活動、家族親睦会等、是非できるだけ多数の方々に参加していただきたいと思ひます。

私は1988年会長年度に韓国ソウルで開催された第80回RI世界大会に会員御夫妻13名(参加者[敬称略]:奥村栄一郎夫妻・西村彰司夫妻・青山竹太郎・新井敏夫・井本上輔・荻野一雄・桜木進・大江順一・野口真光・野村年穂・星野幸男)で参加したことがあります。初めて憧れの国際大会に出席して感じたことは、RIの偉大な組織力と善意からなるロータリアンの力の結集でありました。まことに感動的で貴重な体験をすることができました。

また、この時、ソウルプラザホテルの総支配人であった桐生市川内町出身の星野竹治(故人)氏の出迎えを受けて、地元ロータリアンと一緒にバスに同乗して、親切に市内外の観光地案内をしていただき、その後、韓国料亭での懇親会では盃を交わしながら親睦友情を深め、楽しい一夜を過ごしたことを思い出します。

また、平成14年、15年(2002-03年度)は桐生地区で

4人目となるガバナーとして当クラブの矢野亨ガバナーが誕生しました。(地区幹事・根本正則、地区会計・星野幸男)。そして平成14年10月19日、20日に桐生市市民文化会館で第2840地区大会を開催しましたが、その時この地区大会にお迎えした国際ロータリー会長代理は、インドのカルヤン・パネルジー氏という方で、会議の合間をぬって同御夫妻とPGの重田政信(RI元理事)御夫妻と6名で、マイクロバスで日光観光の案内を担当させられました。途中、神梅のハウス農家を視察し、草木ダム、日光東照宮他の見学のと、金谷ホテルで昼食を共にいたしました。

この方が、2011-2012年度RI会長に就任されましたが、たまたまその年度は、私どもクラブの創立40周年記念の年に当たるとは、何か不思議なご縁を感じました。不自由な会話(言葉)の中にもRI会長代理御夫妻の気遣い、心遣いが感じられて、国を超えたロータリーの友情に感動したのであります。

さて、ロータリーが拡大、発展し、継続していく源は何かといえば、それはクラブの魅力であると思います。クラブの魅力とは会員一人一人の人間の魅力であります。「桃李ものいわざれども、下自ら徑をなす」といいます。有徳の存在の所には黙っていても自然に人が集まります。

是非、一人一人が互いの出会いを楽しめるほどの魅力ある存在となって、クラブの和を計り、ロータリーの公約たる奉仕の理想、世界の平和への奉仕に進みたいと考えます。

ロータリーの奉仕[1]

ロータリーが誕生したのは1905年2月23日なのは、ローアリアン衆知の事実として、この日をロータリー創立記念日にしているのも、これこそロータリーの原点だからであります。

しかし、当時の1905年には未だ奉仕という言葉というより考え方とか思想は判然と出現していませんでした。ポール・ハリスは五人で集って初めて会合を開いた後も、綱領というのはたった2条を使ったのみでした。

第1条 会員の業務上の興味を振興すること

第2条 性質として社交クラブに伴う親睦

その他の望ましい諸点を振興すること
つまり会員の相互援助と親睦が原点であったようであり、その後あることから

第3条 シカゴ市の利益を推進し、市民の市に
対する誇りと忠誠の精神を普及すること

この第3条が加わることにより、地域社会の為に尽くそうとか、地域社会の改善の為に働こうとか、目的が意識化されるようになったであります。この話こそロータリーの原点であり、ロータリーの花の種子に当たる訳です。

今、ロータリークラブに必要なことは、『新しい感覚を持った若い力、女性の力を蓄える』と言うことである。そうしなければ、ロータリークラブは発展しないと言われている。各クラブとも若い会員の充実、また女性会員の増強に力を入れている。

しかし、新しい若い力を蓄えるということは、ただ単に若い人を入会させることで解決するものではない。それでは、ただ平均年齢を下げるということにすぎない。必要なのは私達未完成的なロータリアンが、より一層努力してロータリー力を身に付けることである。

それには、「積極的にロータリーの理念を勉強し、またその歴史的背景と組織の機構を学ぶことが、まず第一歩である。そして自己修練を経て各自が奉仕の概念をつかんで、実践へと移行する。これがロータリアンとしての力なのだ」と、先人は教えてくれている。ロータリーの理念をわきまえ、個人奉仕に徹し、そして団体奉仕へと進んでいくことは、私達がロータリーに入った時から

の義務であったのかも知れない。

ロータリーは歴史的に見て個人奉仕から団体奉仕へとその輪を広げて進化してきている。しかし、このことはロータリーの目的が団体奉仕に移行したということではなく、その基盤はあくまでも個人奉仕にある。個人奉仕の研鑽なくして職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕そして青少年(新世代)奉仕への発展はないのである。

ロータリーに入会すると、種々細かい習慣、行事等は教示してもらえたが「奉仕」という抽象的なものに関しては、中々分かり易く教えて戴けなかった。従って自分もよく理解できなかった。失礼ながら、教える方も教示できるほどに理解しておらず、おぼろげながら自信がある程度であったと思う。しかし、中にはこれ等を確信をもって指導出来る、もはやロタキチ(ロータリー気狂い)に達する方々も存在していた。

「奉仕」の中でも「社会奉仕」等は文字通りであり理解し易いが、「職業奉仕」となると、同じ奉仕の中でも最も理解し難いように受け取っていたのが、普通のロータリアンであったと思う。

特に新入会員には、何故「職業」という2字が付いているのか、奉仕に関係しない職業もあるのではないかと考えたのではないだろうか。ところが、この「職業奉仕」がロータリーの看板だということから、事が面倒であった。あるパストガバナーの話を活用すると、ロータリーという家の玄関に当たるのが「職業奉仕」であり、家の両側の窓は「社会奉仕」と「国際奉仕」であり、裏の大事な勝手口が「青少年奉仕」であり、それこそ家の真中の居住部分「クラブ奉仕」であるという。従って「職業奉仕」こそがロータリーの根幹をなすと言っても過言ではない。

確かに、他のクラブには見られない奉仕が、この「職業奉仕」なのである。社会奉仕、国際奉仕等はライオンズでも、他のクラブ団体でも看板にしているし、実際の活動も華やかである。それに比較して、ロータリーの「職業奉仕」とは、誠に理解し難い。何と説明したら良いか、一言では表せないものである。兎にも角にも、他のクラブにない奉仕であって、ロータリー独自のものであるのは、皆様ご存じの通りである。とかく、ロータリアンの口に出す奉仕哲学は非常に立派であり、論理的であり、非の打ち所のない位だが、奉仕の実践となると果たしてこれで良いだろうかと思えざるをえないこともある。そういう私は未だ職業奉仕の何だかが解っていない。

ロータリーの奉仕[2]

ロータリーの奉仕には5つの奉仕がある。さてこの五大奉仕を推進し、更に実行しなければロータリアンではない訳だが、これを実行する場合に、クラブを中心にして、団体として実践奉仕する場合とロータリアン個人として実践奉仕する場合とがある。ライオンズクラブ等は、前者の団体として実践するのを主旨としている。しかし、ロータリーはどちらかと言うと、後者の個人として実践する方が主旨の様である。従ってこの奉仕はあくまでも地道なものである訳だ。ロータリーの奉仕はまず自分自身、自分の家庭や職場から、更に地域社会迄の言っていくのが本旨である様だ。近頃は奉仕と言うと、段々と本来の意味から遠ざかって行く様な気がする。或る人の言葉だが、何とか大奉仕とか大サービス、時には決死的奉仕とか言う言葉をテレビや新聞で見かけることがあるが、これこそロータリーの奉仕とは程遠いものであると述べている。奉仕というと世間の人々は大安売りの方が好きなのであって、無償の奉仕とかは好きでないのである。考えてみるとロータリーの奉仕とは大変なもので、伝教大師最澄の言葉の如く、慎ましく温かく一隅を照らす様なものかも知れない。

ロータリーとは世間では奉仕団体とか慈善団体とか考えられているようである。卑近な例では寄付団体と思われる。我々ロータリアンが必死になって否定したところで、世間での評価は所詮はこんな所なのかもしれない。

ロータリーは寄付団体ではないと言いながら、その実、今のロータリーはやはり寄付団体ではないだろうか。ロータリーの事業が慈善事業の一つになっていないと果たして言い切れるか。実際に世間がロータリーに期待するものもそこであって、RIにしたところで寄付の多寡を常に意識し、寄付を奨励し、誇示しているのである。このような寄付奨励策が肥大してくると、消防車を寄付すれば社会奉仕、財団に寄付すれば国際奉仕が済むということになる。

職業奉仕はその点に於いて、実践から考えるとむしろ比較的簡単に理解し易いことが多い。自らの職業を通して奉仕することが先ず第一の考え方であるが、職業奉仕事例集という本などがあり、非常に多数例が載っている。この事例を読んで、職業奉仕とは如何なるものか理解した方が早いと思われる。或る偉い方の言葉によれば職業奉仕と社会奉仕はどこが違うかと云うと、職業奉仕は金儲けと奉仕が両立しなければならない。事業に失敗したら職業奉仕どころではない。但し、社会奉仕は金儲けとは全く関係ないものである。言葉は悪いが、判り易く言うと、職業奉仕は金儲け(?)の方法であり、社会奉仕は金の使い方(?)であると。

また、「奉仕」というと、言っても聞いても耳障りが良いし、しかも「奉仕」を与える方は、もらう方よりも何れにも恰好が良さそうである。昔は多分世間の人々は「ロータリークラブ」とは奉仕団体であって、せびれば(頼めば)「お金」を出してくれると理解していたのではないだろうか。

我々も唯々単に「お金」を出すだけならば、19世紀から20世紀にかけての「慈善」に他ならない事になる。即ち、貴族階級である自分が暖かい身なりをして馬車に乗り、ポケットに入れてある銀貨を寒さに震えている貧乏人に投げ与えるようなことである。そこには言葉こそ慈善だが、一方通行しか感じられず、真の「奉仕」は存在しない。ロータリークラブとはお金持ちの昼食会と評価され、「お金」を出してくれる社長さん達の奉仕団体と見做されるのは、迷惑至極なのである。

「ロータリーの世界は自他共栄と善意であります。善意と言うものが無かったら、職業奉仕は単なる金もうけに過ぎず、社会奉仕も単なる施しとなり、国際奉仕も外交辞令に過ぎません。」これは、当地区のPGであった今は亡き前原勝樹氏の言葉である。なかなかロータリーの核心に触れた言葉である。善意というものは何物にも優るものであり、思いやりのある善意は更に素晴らしいものである。更に先生は著書で次の様に言っている。「ロータリークラブは奉仕する団体ではありません。奉仕する人々の集まりです」と。これは、ロータリーの理念を適切に表現している言葉である。ロータリアンの一部の間にさえ、ロータリーは団体として奉仕する、即ち寄付団体と心得ている人もいるのではないか。これは大きな誤りであり、奉仕する団体なんかでなく、奉仕を志し、これを実践しようとする人々の集まりである事を、銘記すべきである。

桐生西RAC創立30周年記念植樹を行う



2月27日(木)の午前11時から、桐生西ローターアクト創立30周年を記念して、社会福祉法人希望の家敷地内に、吉野しだれ桜の植樹を行いました。

桐生西RACは1990年3月2日に発会式を、同年5月6日に認証状伝達式を桐生プリオパレスで挙行し、活動して参りました。その間、会員減少で存続が危ぶまれる時期もありましたが、提唱クラブである当クラブの歴代会員のご尽力により、無事30周年を迎えられることになりました。

記念樹の吉野しだれ桜は、奉仕プロジェクト委員長の家住慧路パスト会長が寄贈して下さいました。また、植樹場所の希望の家は、桐生西RCのキーメンバーである故 矢野享パストガバナーが設立された施設であり、当施設の職員さんには桐生西RAC会長幹事経験者が多く在職される等、桐生西RACとはひとかたならぬ縁等もあり、記念樹の場所を快く提供して下さいました。

当日は、希望の家から野田真一郎理事長先生、監査の乾和久会員、事務長の清水重昭会員が、桐生西RACを代表して、幹事のバヤルサイハン・オウンジェルガルさん、パスト会長のプレブスレン・ホランさん、会計のメアス・チャンソヴァンヴォレアクさんが、当クラブから新木明夫会長、家住慧路委員長、霜村年勇RA担当、山形剛幹事が出席しました。また、希望の家の職員さんには、色々とお手伝いを頂きました。

植樹後、希望の家「のぞみの苑」の一室をお借りして、昼食を頂きながら祝うと共に、30周年祝賀会を計画通り開催すべきか否かなど、意見交換を行いました。

本記念植樹が、野田理事長先生はじめ希望の家の皆様、家住委員長他、多くの皆様のお陰で無事行われました事に感謝し、しだれ桜の健やかな生育を祈念すると共に、桐生西RACの更なる発展と見事な花が咲くことを期待致します。



桐生4RCで80万円を桐生厚生病院へ寄付

5月20日(水)午後1時30分、坪井良廣ガバナー補佐と桐生4RC会長幹事が桐生市役所を訪問して、各クラブ20万円ずつ合計80万円を、同病院の管理者である荒木恵司市長にお渡ししました。新型コロナウイルス感染症に桐生市とみどり市の最前線で働いておられる医療従事者の皆様へ感謝と慰労の気持を込めてお贈りしました。荒木市長からは各クラブへ感謝状が授与されました。

